

令和3年度 とちぎの道徳  
「特色ある道徳教育支援事業」研究校及び  
「道徳教育応援チーム派遣事業」実践校の取組



【特色ある道徳教育支援事業】

「特色ある道徳教育支援事業」は、市町教育委員会と連携して研究校を指定(2年間)し、道徳教育の内容の重点化を図った研究を進めるとともに、道徳教育推進教師を中心とした校内体制の充実、道徳的実践の指導の工夫など、主体的な実践研究の促進を図るものです。

令和3年度は、研究校1年目として、日光市立東原中学校で研究を行いました。

【道徳教育応援チーム派遣事業】

「道徳教育応援チーム派遣事業」は、道徳教育の充実を目指して取り組んでいる学校に対し、教育事務所や市町教育委員会と連携を図りながら、指導主事をチームとして派遣し<sup>\*</sup>、道徳科の授業改善や教員の指導力の向上、児童生徒の発達の段階に応じた道徳性の確かな育成を目指すものです。

令和3年度は、壬生町立安塚小学校、那珂川町立馬頭中学校の2校で実践を行いました。

このリーフレットでは、本県で実施している上記二つの道徳教育関連事業における各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。

道徳は、平成30年度に小学校、令和元年度には中学校で特別の教科となりました。各学校における道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、研究校や実践校の事例を参考にいただければと思います。

\* 本リーフレットでは、「特別の教科 道徳」を「道徳科」と表記します。

◇学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた生きる力を育み、生涯にわたって主体的に学び、未来を切り拓くことのできる生徒を育成する。

具体目標：自ら学ぶ生徒【知】、心の豊かな生徒【徳】、たくましい生徒【体】

◇学校の道徳教育の目標

自己の生き方を考え主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性が養われた生徒を育成する。

◇学校の道徳教育の重点

- ・ 基本的生活習慣を身に付け、集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。
- ・ 規則を尊重する態度や、強い意志と勤労意欲を育てる。
- ・ 郷土の伝統と文化を尊重し、自らも地域社会の一員として貢献しようとする意欲を育てる。

研究の実際

特色ある道徳教育支援事業

◇研究を始める前の道徳教育及び道徳科の授業の現状と課題等

- ・ 道徳教育全体計画や別業を作成しているが、道徳教育推進教師を中心として、全教職員で道徳科と各教科等との関連を意識しながら指導に当たることができるよう、道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントが必要である。
- ・ 道徳科の授業の質の向上を図るため、研究授業及び授業研究会を実施してきたが、「考え、議論する道徳」への質的転換について課題を感じている教職員は多い。

研究の視点

視点1 「教える道徳教育」におけるカリキュラム・マネジメント

- ・ 各教科等と道徳科の内容項目との関連付け
- ・ 別業を活用した各教科等における道徳性を養うための学習

視点2 道徳科の多様な指導方法への質的改善

- ・ 指導観を明確にもった授業づくり
- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の授業づくり
- ・ 外部講師派遣による道徳教育研修の充実

視点3 道徳科における個別最適な学びと、協働的な学びの実現

- ・ 道徳科の授業におけるICTの効果的な活用

<主な研究の経過>

校内における道徳研修

- 6月 第1回 研究主題や研究推進体制等について
- 6月 第2回 プレ授業(第2学年)、指導案検討会
- 7月 第3回 授業研究会①(第2学年)  
外部講師による講話①
- 9月 第4回 プレ授業(第3学年)、指導案検討会
- 9月 学年道徳の実施(第2学年)
- 9月 第5回 授業研究会②(第3学年)
- 11月 第6回 外部講師による提案授業  
外部講師による講話②
- 12月 第7回 研究の中間まとめ、今後の方向性について
- 12月 他教科との関連を意識した授業の実施(社会科第3学年)
- 1月 第8回 プレ授業(第1学年)、指導案検討会
- 1月 第9回 授業研究会③(第1学年)  
外部講師による講話③

校内研修につながりをもたせるようにした。

指導案検討の機会を設け、教材研究の充実を図った。

外部講師を3回招聘し、学校のニーズに応じた講話や支援を実施していただいた。(講話の内容)

- ① 考え、議論する道徳科授業～「考える」とは～
- ② 道徳科における内容項目の捉え方
- ③ 全体計画(別業)作成とカリキュラム・マネジメント

## <効果的だった取組等>

### 視点1

### 「教えてる道德教育」におけるカリキュラム・マネジメント

○ 1年生の総合的な学習の時間で実施した高齢者との交流活動を通して道徳実践の指導を行い、その後の道徳科の授業において、「ともに生きる」という主題の授業の中で内面的な資質の育成を図った。



【生徒の声】  
高齢者の方々と、同じスポーツを一緒に楽しめることがわかりました。相手のペースに合わせて行動したり生活したりすることも大切だと改めて感じました。

○ 1年生の総合的な学習の時間で実施した書道教室を通して道徳実践の指導を行い、その後の道徳科の授業において、「伝統を守る」という主題の授業の中で内面的な資質の育成を図った。



【生徒の声】  
書道は日本の大切な文化だということを改めて感じました。伝統を守るために、「伝統を知る」ことが大切だと思いました。



○ 「いじめへの公正な態度」という主題の2年生の授業で、各学級で内面的な資質の育成を図った後、学年道徳を実施した。その中で、役割演技や多くの友達との意見交換を行うことにより、生徒それぞれの考えを深めさせた。

【生徒の声】  
クラスでの道徳の授業と学年全体での道徳の授業で考えたことで、登場人物の気持ちや考えが自分のことのように思えて、より深く考えることができたと感じました。一人ひとりの感じ方や捉え方の違いもわかりました。

#### ○成果

・ 道徳科と各教科等の授業をつなぐアイデアを出し合うなど、職員室内で道徳教育について語り合う場面が多く見られるようになった。

#### ●課題

・ 年間指導計画に位置付けられた学校行事等を、道徳科の授業でどのように深化させていくかを整理するだけでなく、道徳教育の視点から学校行事等をどのように計画・実施していくかを整理する必要がある。  
・ 既存の一覧表形式になっている別業だけでなく、内容項目や指導の要点、各教科等との関連がより分かりやすくなる別業の作成が必要である。

### 視点2

### 道徳科の多様な指導方法への質的改善(外部講師の招聘)



○ 外部講師による提案授業を実施した。提案授業を参観することで、生徒とのやり取りを大切にしなが、生徒の考えを受け止め生かすことの重要性を学んだ。



○ 学校教育全体で行う道徳教育の充実について、複数回外部講師に講話をいただいた。道徳科の授業について理解を深めるとともに、本研究の方向性に対する共通理解を図ることができた。

#### 【先生方の声】

・ 授業づくりに対する迷いが少なくなった。  
・ 自信をもって授業ができるようになった。  
・ 道徳科の授業に対する見通しがもてるようになった。  
・ 教師用指導書に頼らない授業づくりをしていきたいと思った。

#### ○成果

・ 外部講師派遣による道徳教育研修の充実では、授業への指導助言だけでなく、提案授業の実施や研修後の質問等への回答をしていただき、理論と実践を往還しながら授業づくりについて理解を深めることができた。

## 視点2

### 道徳科の多様な指導方法への質的改善(教材研究の充実)



○ 指導案検討、プレ授業、研究授業、授業研究会を重ね、授業を行った。指導案検討の際には、指導観を明確にして教材分析を行ったり、生徒から本音を引き出す発問を考えたりするなど、教材研究の充実を図った。

#### 【先生方の声】

- ・ 指導案検討会での意見交換により、指導観を明確にもつことができた。
- ・ わらいの明確化、発問や板書の工夫について考えることができた。
- ・ わらいとする道徳的価値について、生徒が理解したり思考を深めたりできるよう工夫していきたい。

#### ○成果

- ・ 学習指導要領の内容を端的に表す言葉だけでなく、内容項目、内容項目の概要、指導の要点などを確認しながら授業づくりをしたことで、生徒が主体的に自分との関わりで考えたり、多様な考え方や感じ方に触れながら道徳的価値についての理解を深めたりすることが多くなった。

#### ●課題

- ・ 指導観を明確にもって授業を展開したが、道徳的価値に関わる生徒の反応を予想することが十分できていなかったため、生徒の意見を生かした展開にならなかった授業が見られた。生徒の実態を多面的・多角的に捉えた授業づくりができるよう、教員同士の情報交換・共有が必要である。

## 視点3

### 道徳科における個別最適な学びと、協働的な学びの実現(協働学習支援ツールの活用)



○ 生徒の考えを共有する場面において、ICTを活用した。画面に一覧表示された他者の考えを知ることによって、多面的・多角的に考えることにつながった。

○ 生徒の考えを把握・整理する場面において、ICTを活用した。瞬時にグラフにするなど、視覚化して提示できるため、効率化が図れた。

○ 思考を整理する図や表などを活用しながら、自己を見つめ自分の考えを整理した。授業の記録を端末やクラウドストレージに保存・蓄積した。

#### ○成果

- ・ 協働学習支援ツールを活用することで、時間をかけずに生徒の考えを把握・整理して全体に共有できた。また、生徒が自己を見つめ考えを整理したり、端末に考えを保存したりすることができた。
- ・ 授業記録を端末やクラウドストレージに保存・蓄積することで、生徒自身の振り返りに活用できるとともに、生徒の成長を積極的に認め励ましていく個人内評価に活用できた。

#### ●課題

- ・ 教員のICT活用指導力の向上と平準化が必要である。
- ・ ICTの活用により記録の蓄積は容易にできるが、紙媒体での活動記録も多いため、それらを整理して保存し、個人内評価に有効に活用するための共通理解と工夫が必要である。

### <今後に向けて>

道徳科の授業づくりを充実させることはもちろんだが、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育に全教職員で取り組んでいくことが大切だと改めて感じた。今後は、別業の内容を吟味・工夫し、道徳科の授業の充実や、道徳科と各教科等との関連を意識した指導の充実を図り、学校の教育活動全体を通じて「教える道徳教育」を実践していきたい。

道徳科におけるICTの活用については、引き続き試行錯誤が予想されるが、協働学習支援ツール、思考整理ツールの活用を中心に、その効果を検証していきたい。

◇研究のねらい

本校では、自分の思いを分かりやすく伝えることを苦手とする児童が多く見られる。そこで、児童が自分自身と向き合い、自己の生き方としての価値観がより深まる道徳科の推進について研究し、全ての学級において、児童が自分のこととして考えを深める授業を行えるようになることを目指す。

◇実践内容

全校での道徳教育推進体制の構築

- ・ 道徳教育や道徳科の授業についての校内研修を行い、全教職員での共通認識を図った。
- ・ 定期的に、各学年で道徳教育についての情報共有の時間を設定したことで、発問や板書など、授業についての話し合いが活発化した。

校内研究授業の充実

- ・ 授業のねらいや中心発問、問い返しを各グループで協議し、講師の先生から提案していただいた発問づくりシートに記入していく研修を実施した。児童の考えを広げたり深めたりするためには、教材を吟味し、教材を通して何を考えさせたいのか明確な意図をもつことが大切だということを学んだ。中心発問と補助発問の構成について、教員同士で活発な意見交換をすることができ、それぞれが協議した授業を実際に参観することで、指導力の向上につながった。



【校内研修の様子】



【研究授業の様子】

提案授業の実施

- ・ 外部講師による提案授業を参観する機会を設けた。研修テーマは「児童が自分のこととして考えを深めるための発問・問い返し」とし、提案授業は、低・中・高学年で1学級ずつ提案いただき、それぞれのブロックの教員が参観した。どの授業でも、導入・展開・終末の全ての段階において自分との関わりを促す授業づくりを提案いただいた。児童は、「自分」カードの掲示や外部講師からの発問・問い返しの中で、自己内対話を深めていた。



【師範授業の様子】



【校内研修の様子】

ICTの活用

- ・ 壬生町で積極的に推進・研究している壬生型GIGAスクール構想「ゆうがおGIGAラーニング」に則り、道徳科の授業でもICTを活用した授業づくりに取り組んだ。Formsのアンケート機能を使った導入の実践や、Google Jamboardの付箋機能を使った自分の意思表示、パワーポイントでの心情サークルの操作など、自分や友達の思いを視覚的に確認することができた。



【Google Jamboardを操作する様子】

- ・ 提案授業後の外部講師からの講話では、教員からの道徳科の授業についての質問にお答えいただいた。効果的な導入や板書構成、終末の組み立て方、多面的・多角的に考える授業についてなど、日頃授業実践をする中で疑問に思っていたことが解消でき、大変参考になった。
- ・ 後日、各学級で自分のこととして考えを深めるための発問や問い返しを工夫して実践を行った。学級の実態や児童の反応に寄り添いながら、自分のこととして考える力や態度を身に付けさせたいという教員の意識向上につながった。

○成果(児童や教師の変容)

- ・ 導入、展開、終末にかけて、児童が自分のこととして考えを深めるための工夫を教員が考えるようになったことで、自分と向き合い、自分の考えを伝えようとする児童が増えてきた。
- ・ 研究を進めるに当たり、教員同士で道徳科の授業について話す機会が増え、指導力が向上した。

●今後の取組

- ・ 全ての学級において、自分のこととして考えを深めることのできる授業が行えるよう、効果的な発問構成や話し合いのコーディネートについて、今後も全校での研修の仕方を工夫していく。

◇研究のねらい

本校生徒は、全体的に落ち着いており、素直で男女仲も良く、当番や係の仕事、清掃活動等にも熱心に取り組んでいる。また、与えられた課題や指示されたことにも真面目に取り組むことができる。一方で、自分とは異なる意見と向かい合い、議論することに躊躇する傾向も見受けられる。異なる意見や多様な意見に出会う意義を実感させ、他者の考えを理解し、共によりよく生きようとする生徒の育成を目指す。

◇実践内容

提案授業による校内研修

- 外部講師による提案授業を実施した。教員の指導観を基に指導の意図を明確にし、授業を構築することの大切さを学んだ。「冰山モデル」により、「教材の心情表現」と「私の心の奥からの思い」を分けて比べて考えさせることにより、生徒はより深く道徳的価値を理解し、自分と向き合うことができた。



【提案授業の様子】

- 提案授業後に、全教職員で研究協議を行った。授業についての感想や、授業の展開についての意見交換では、いかに自分自身との関わりで捉えることができるかや、気持ちの変化が可視化できる板書をどのように工夫するかなど、これまでの授業を振り返り、道徳の授業への意識が高まった。

校内研究授業

- 1学年及び2学年において複数回にわたり研究授業を実施した。指導案検討を行い、熱心に意見を交わしながら教材研究を重ねた。また、研究授業の前に他学級でプレ授業を実施し、効果的な発問について研究を行うなど、道徳科の授業づくりへの意識が高まった。
- 「ふるさと とちぎの心」に掲載されている地域教材の効果的な活用について研究したことによって、教材の開発について理解を深めることができた。
- タブレットの活用により、生徒から本音や深い意見を引き出すことができた。



【研究授業の様子】



【ICT活用の様子】

教職員の学びに向かう集団づくり

- 授業研究会には、全教職員が参加し、指導方法の工夫・改善について活発な議論を行うことができ、教職員の道徳教育に対する意識及び授業力向上が図られた。また、近隣の小学校の希望者にも参加してもらったことで、新たな視点から協議できたとともに、小中連携を図ることにもつながった。
- 授業研究会を通して、教員の意識の高揚が見られ、意図的・計画的に授業を組み立てることができるようになった。また、教員の思いや工夫が生徒にも伝わり、さらなる信頼関係の構築にもつながった。
- 全教職員が参加するワークショップ型の研究協議では、良い点のみを褒め合う形式的な協議ではなく、改善点や視点を変えたアイデアなどが飛び交う建設的な協議となった。



【校内研修の様子】

○成果(児童や教員の変容)

- 本時のねらいや道徳的価値の理解を深めさせることの大切さに改めて気付くことができた。
- 全教職員で研修に参加することにより、指導方法の工夫や改善を行うことができた。また、研究授業の検討を複数の教員間で行うことにより、よりよい授業実践をしようとする意欲が高まった。
- タブレットを活用することで、発表の苦手な生徒も心の思いを発信できるようになった。

●今後の取組

- コロナ禍での「考え、議論する」授業の方法や生徒同士の関わり方について研究を深める必要がある。
- キャリア教育との関連や、ゲストティーチャーの活用などの地域との連携等を通して、自己の生き方について主体的に考えられるような授業づくりを研究していくなど、さらなる深化を図りたい。